

ひなの家押野通信第11号

恒例の秋の運動会 2組に分かれ歓声 「玉入れ」など5競技に汗



玉入れに熱中する利用者

ひなの家押野恒例の秋の運動会が10月12日、盛大に行われ、フロアに歓声がわきました。
まず、利用者も職員は「若い力」を歌いながら体操で体をほぐしました。その後、「金」と「赤」の2チームに分かれ対戦。「玉入れ」では、こぶし大に丸

めた新聞紙を制限時間内にかごに投げ込み、その数を競いました。
「満水リレー」では、フリックのペットボトルをチーム全員がリレー形式で早く満水にした方が勝ち。「パン食い競争」では、ロープにつるされた菓子パンを口でくわえようと懸命



パン食い競争

満水リレー



職員対抗リレーもあり、フロア狭くと走りました。競技結果は、金チームが勝ちました。全員で「炭坑節」を踊り観勝を深め、最後に利用者代表として、小野治郎さんが「元気いっぱい体を動かし、楽しく過ごしました」と締めくくりの言葉を述べました。

でした。



野々市市押野 1-31
電話076(287)5810



金メダルも授与される

炭坑節踊り



四季を撮る



ハロウィーンを楽しむ

地元の学童クラブ「たちのクラブ」から、ハロウィーンのデコレーションを贈っていただきました。いたずらっぽいお化けの顔をあしらったカボチャを中心に、ガーベラの花やツバキの葉などが添えられています。児童たちの手作り。陽気なカボチャが「コロナに負けないで」と言っているようです。



インドネシアの若者2人が「押野」で研修

専門学校アリス学園（浜市）介護学科で学んでいるインドネシア出身のプトウさん（28）とアディさん（25）がひなの家押野で介護実技の研修に励んでいます。2人とも2018年に来日し、日本語を習得した後、昨年からの介護について学んでおり、今回、10月から11月未まで、同ホームで研修しています。



プトウさん(左)とアディさん



中秋の名月を楽しむ 月見団子とススキをお供え

中秋の名月となった10月1日、利用者らが月見団子やススキを供え、深まりゆく秋を感じ取りました。

この日のお昼、お菓子作りが得意なスタッフが作った月見団子をお供え



月見団子やススキを添える利用者

した後、みんなで食べました。利用者らはウサギの耳飾りをつけて秋の歌を合唱し、楽しいひとときを過ごしました。

夜も宿泊の利用者が玄関前に椅子を並べて、夜空に浮かぶ名月をうつとりと眺めていました。



月見をする利用者



スタッフ紹介

「元気いっぱい」⑪

看護師 ^{たけもと} 竹本 ^{ともみ} 智未さん

心の触れ合い 毎日が充実

祖母、母と3代にわたって看護の仕事に就いている。「手に職を持つ」と母に命じられるまま、転じた。初めて経験看護師になった。し



いつも優しい竹本智未さん

かし、「一人の命を扱齢者に接すると、大う仕事の重さに圧倒好きだったとき祖母されてきた」と振り返った。15年ほど、いくつかの病院で働いた。2018年4月、ひなの家押野にうで、今は毎日が充実している。「高実している」。

愛媛県出身。石川県出身の夫とともに、金沢に。趣味は手芸。今は、ギターを弾くための特訓中。「ギターを伴奏しながら利用者」と、歌つとときがとても楽しい。

サツマ芋を収穫

ひなの家押野の畑で育てていたサツマ芋が収穫されました。両手でやっ



サツマ芋を手にする利用者

と持てるほどの大きなものや小石のようなもので大小十数個。みそ汁にしたりふかしたりして利用者にも振る舞われました。

◎編集後記

トラックに食料品などを積んで訪問販売する移動スーパーが毎週2回、このホームにやってきます。利用者にとっても重宝がられています。何年も前、富山の山村で、移動スーパーが住民に好評でした。ホームを訪問するのもニーズがあるから。ともあれ、とてもありがたいです。
(浦上)